

第6学年体育科学学習指導案

1、単元名

みんなが楽しめるためには ～矛盾や差とどう向き合うか～

教材：ボール運動領域 ゴール型 キャリーバスケットボール

2、単元の目標

(1) 体育科としての目標

- 本単元で取り組む運動の面白さを味わうために必要なことを探求することができる。
- 矛盾や差がある中で、みんなが楽しめるために、自ら解決方法を考えることができる。

(2) 汎用的スキル

- 「競争」と「協同」の矛盾、友達との差と向き合う中で、自己や他者、チームの課題を見つけ、その解決や目標達成の方法を考え、自らの行動を選択することができる。(問題解決力)
- チームの課題解決に向けて、本音のコミュニケーションを図りながら、他者と協力することができる。(協働する力)

(3) 態度・価値

- 自分とは違う考え、経験、能力をもつ人がいることを理解し、その差を受け入れながら同じ目標に向けて活動することを通して、他者と学び合うことのよさを感じることができる。(他者に対する受容・共感・敬意)
- 「勝ちたい」という競争と「みんなが楽しめるために」という協同との狭間で、チームの課題解決や目標達成のために、すすんで友達とかかわろうとすることができる。(協力しあう心)

3、児童の実態

小学6年生という年齢は、集団とのかかわりの中で自分とは何かを意識する段階である。少しずつ自己と他者を客観的・俯瞰的に見られるようになってくる中で、考え方の違いや差を感じるとともに、自分らしさとは何か疑問をもち始めている。学級という集団の中で生活していくためには、価値観や能力の差に目を向けるとともに、様々な見方や考え方を受け入れ、同じ目的のために協力する姿勢を身に付ける必要がある。しかし、現実にはそんな簡単に物事が進まない。価値観や能力の差には、妬み、嫉妬、嫌悪などといった自己の思いがつかまとう。だからこそ、目的を意識する中で、それらの感情と向き合い、他者と共生していける姿勢を身に付けていく必要がある。

本学級では、体育の学習を中心に、その教材のおもしろさ、個人が感じる楽しさを尊重しつつ、みんなが楽しいと感じられることを目指して活動してきた。さらに、それぞれの領域・種目のみで学びを完結させるのではなく、他領域・多種目にも学びがつながっていくように、単元最後に「他の種目につながる視点」を学級で共有してきた。多様な感情を抱え、他者を意識する年代だからこそ、集団性、組織性が表出しやすい本単元の活動を通して、子どもたちの普段の生活と関連付けながら学びを進め、創造した学びを自己の生活にいかしていけるようにしていきたい。

4、単元について

①教科から見た特性

2人以上で行うボール運動は、競争と協同という矛盾を抱えている。どちらが多く点と取るか競うだけであれば、卓越した技術・技能をもつ子どもだけが活躍した方が勝てるかもしれない。しかし、それではチーム全員が楽しむことはできない。技能や理解の差がある中で、その差を受け入れ、他者と協同することが求められる。「高い所に設置されたゴールにボールを入れる」というバスケットボールのおもしろさをみんなが味わえることを目指しながら、他者と共通の課題や目標を設定し、集団が未組織の状態から組織化された体系へと向かえるように「キャリー制」「3対3 オールコート」「子どもとともに作る単元計画」という3つの手立てを設定することにした。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

「勝ちたい」という思い、「みんなが楽しめるために」という思いの強さは様々である。また、シュートなどの技能の差、空間や時間といった認知の差、動き方や戦術といった理解の差など、子どもたちの間にはたくさんの差がある。ゴール型の運動を通して、これらの違いと向き合う中で、子どもたちは協働する力、問題解決能力、他者に対する需要・共感・敬意などをはぐくんでいくと考える。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て(全10時間 本時7/10時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (7時間)	・試しのゲーム ・シュート練習 ・チーム練習 ・兄弟班でのゲーム	○問題解決力 ○協働する力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○子どもたちのふり返りから困った感、疑問、気づきを共有 ○兄弟班から1チーム移動してゲームに取り組み情報を共有
第2次 (3時間)	・シュート練習 ・チーム練習 ・リーグ戦	○協力しあう心	○競争への思いが強まる中で、ふり返りから、ルールやチームの課題へと目を向けられるような視点を合意形成

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・チームの課題と向き合い、課題解決の方法を考え、解決に向けて行動する。
- ・自分の願いと他者の願いの両者を意識しながら、楽しんでゲームに取り組む。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	○シュート練習 6つのゴール全てにシュートを入れる（2周） ○チームでの話し合い 課題、意識したいこと、チーム練習について検討 ・速攻をしよう ・ボールを取ったら、切りかえを早くしよう ・ゴール下へサイドラインから走り込もう ○前時のふり返し ①前時に称賛されていた子が意識していることを発表 前時のふり返しで称賛されていた子が「どのようなことを意識してプレーしているか」を発表してもらい、全体の意欲を高めるとともに、ボールを持たない動きに着目できるようにする。 ・ボールをとったら、相手の後ろのスペースに走り込む。 ・サイドラインの近くから、ゴール下へ走り込む。 ②ルールとどのように向き合っていくか 前時のゲームでルールを守れていなかった例を示し、「ルールとの向き合い方」について意識づける。 ・「ルールを破ってまで勝ちたい」「クラス全員で楽しみたい」という両方の思いを理解したうえで、どのような行動を選んでいくべきか考えてプレーする。	◇体育館へ来た子どもから、自主的にシュート練習ができる場を設定する。（ゲームに必要な技能の習得：問題解決力） ◇シュート練習が終わった子どもから、チームで本時の目標や課題解決の方法を検討する時間を設定する。（協働する力、他者に対する受容・共感・敬意、協力し合う心） ◆チームの課題と向き合い、課題解決の方法を考えている。（観察・ホワイトボード） ◇友達の良い動きや気づき、困っていることを共有することで、自分たちの目標や課題解決の方法を改めて意識できるようにするとともに、他者の考えを自分たちにいかす機会を設定する。（他者に対する受容・共感・敬意、協力し合う心）
展開 30分	○チーム練習 ・3対2 ・ツーマン ・Iカットによるフリーをつくる動きの練習 ○ゲーム（前後半3分ずつ×3回）	◇チームの課題に応じた練習に取り組んでいる様子を称賛する。（問題解決能力） ◇チーム練習の時間や前後半の間の時間にチームで集合し、互いの願いや思いを共有しながら、課題解決に向けて取り組んでいる姿を称賛する。（協働する力、他者に対する受容・共感・敬意、協力し合う心） ◇ルールを守ることと、勝つために意欲をもって取り組み協力することの両立を目指して行動している姿を称賛する。（他者に対する受容・共感・敬意、協力し合う心） ◆自分の願い、チームの願いとともに、ルールも意識しながら楽しんでゲームに取り組んでいる。（観察）
結末 8分	○ふり返し ①チームでのふり返し ②学級でのふり返し ③個人でのふり返し（体育ノートに学習感想を書く）	◇「設定した目標が達成できたか」「課題に対して実際はどうであったか」「本時の気づいたことやわかったこと」を中心にチーム、学級、個人という3段階で活動をふり返る。（協働する力）

第 6 学年体育科学習指導案